明石市Tacoバス
利便性の向上と利用促進策について

明石市都市局都市整備室都市総務課

内　容

1．明石市の概要

2．コミュニティバス（Tacoバス）

3．利便性向上と利用促進策

4．持続可能な展開方針

5．まとめ

マスコットキャラクター「たこバスちゃん」

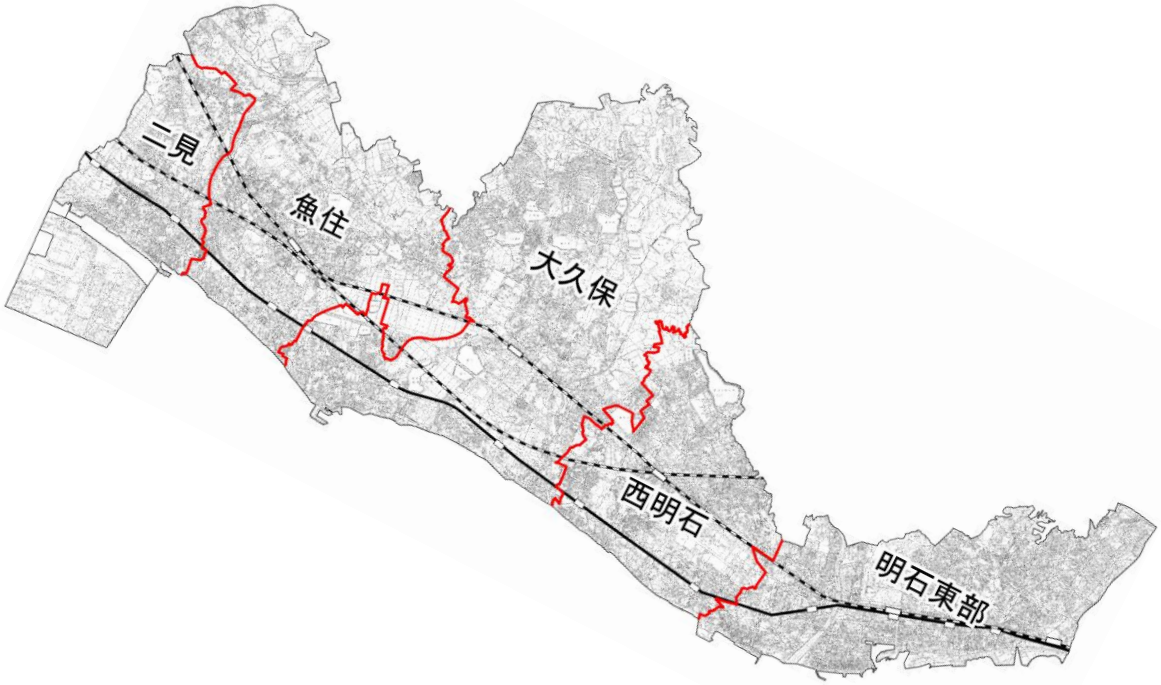
1. 明石市の概要

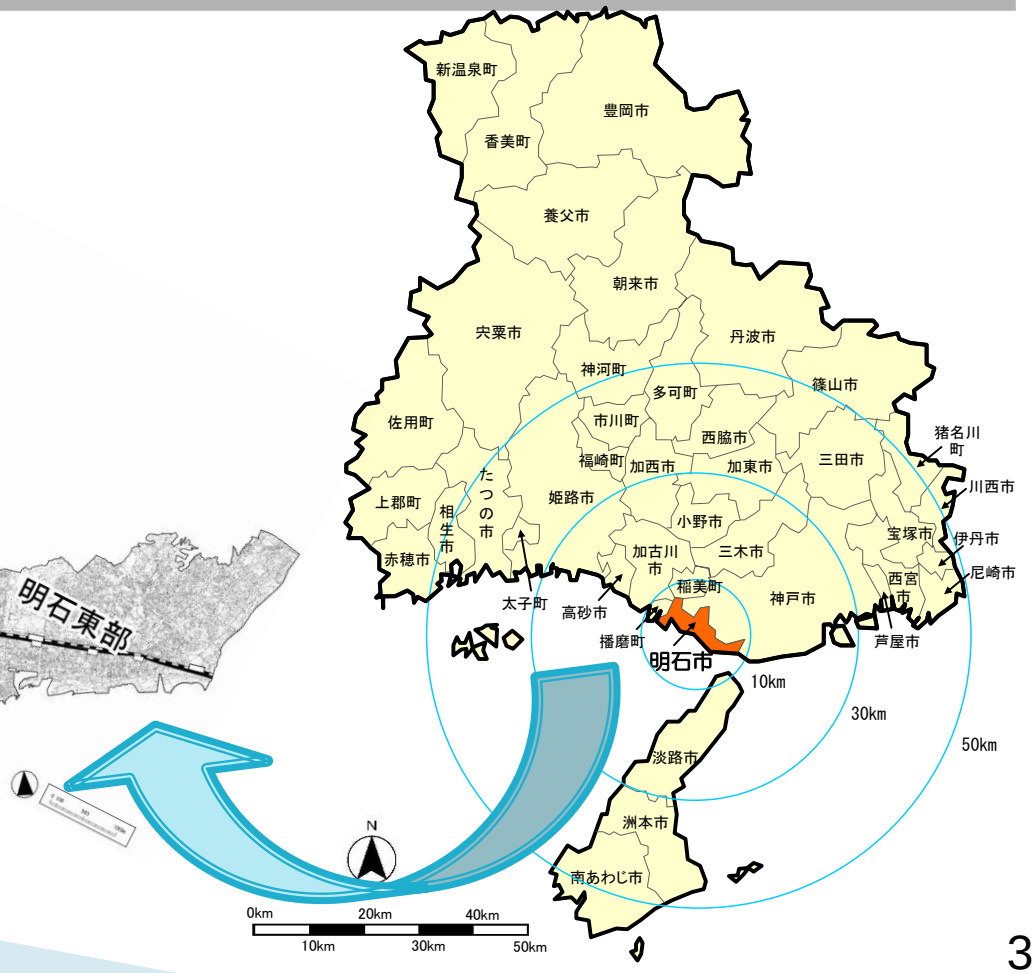
（1）明石市の基本情報

人口：294,285人H29.1.1　面積：49.42㎢（東西約16km・南北約9km）

隣接自治体：神戸市・加古川市・稲美町・播磨町（明石海峡を挟んで淡路市）

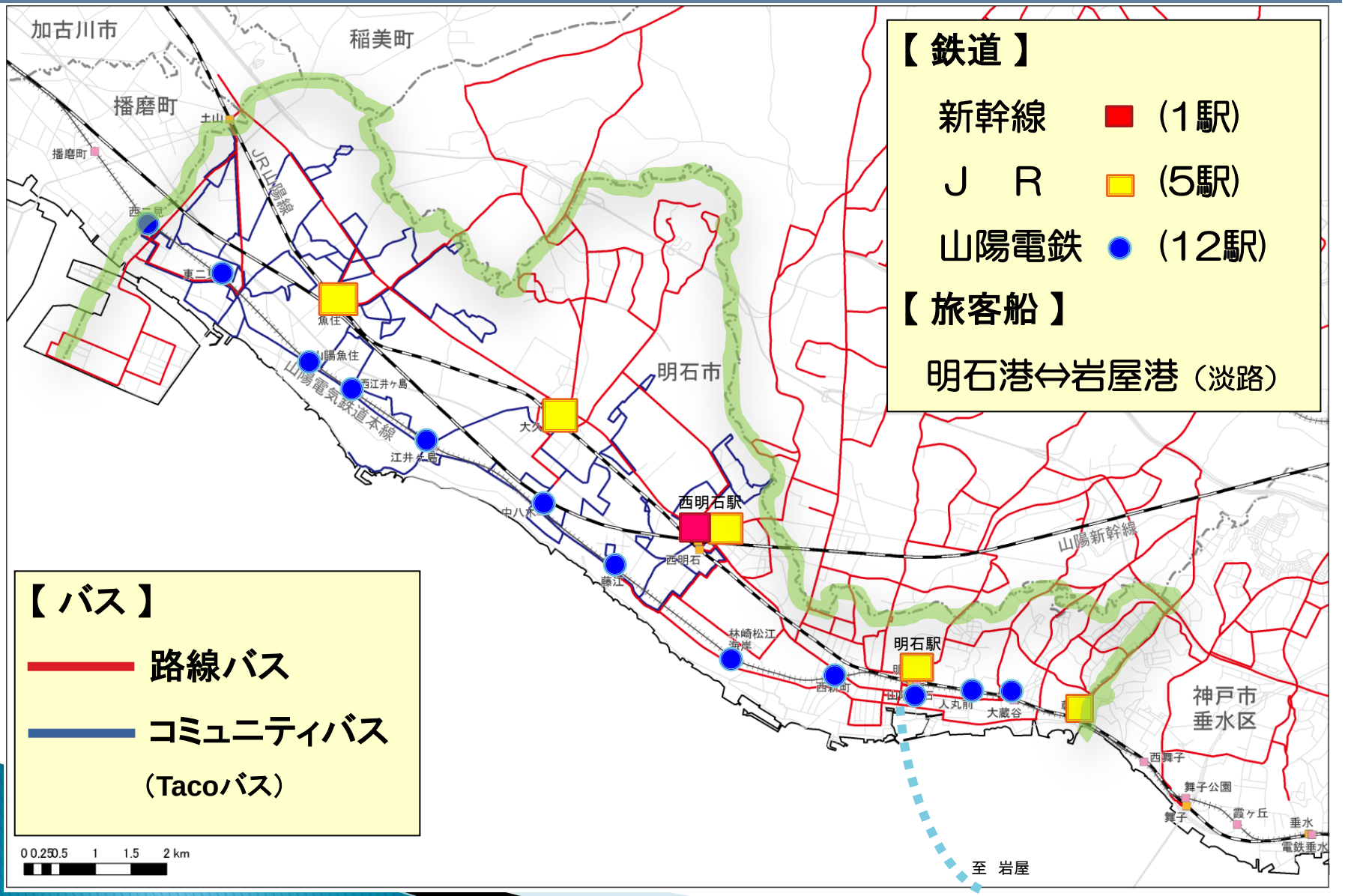
予 算 総 額：約2,054億円(H29当初)　特別会計、企業会計含む





1. 明石市の概要

（2）明石市の公共交通

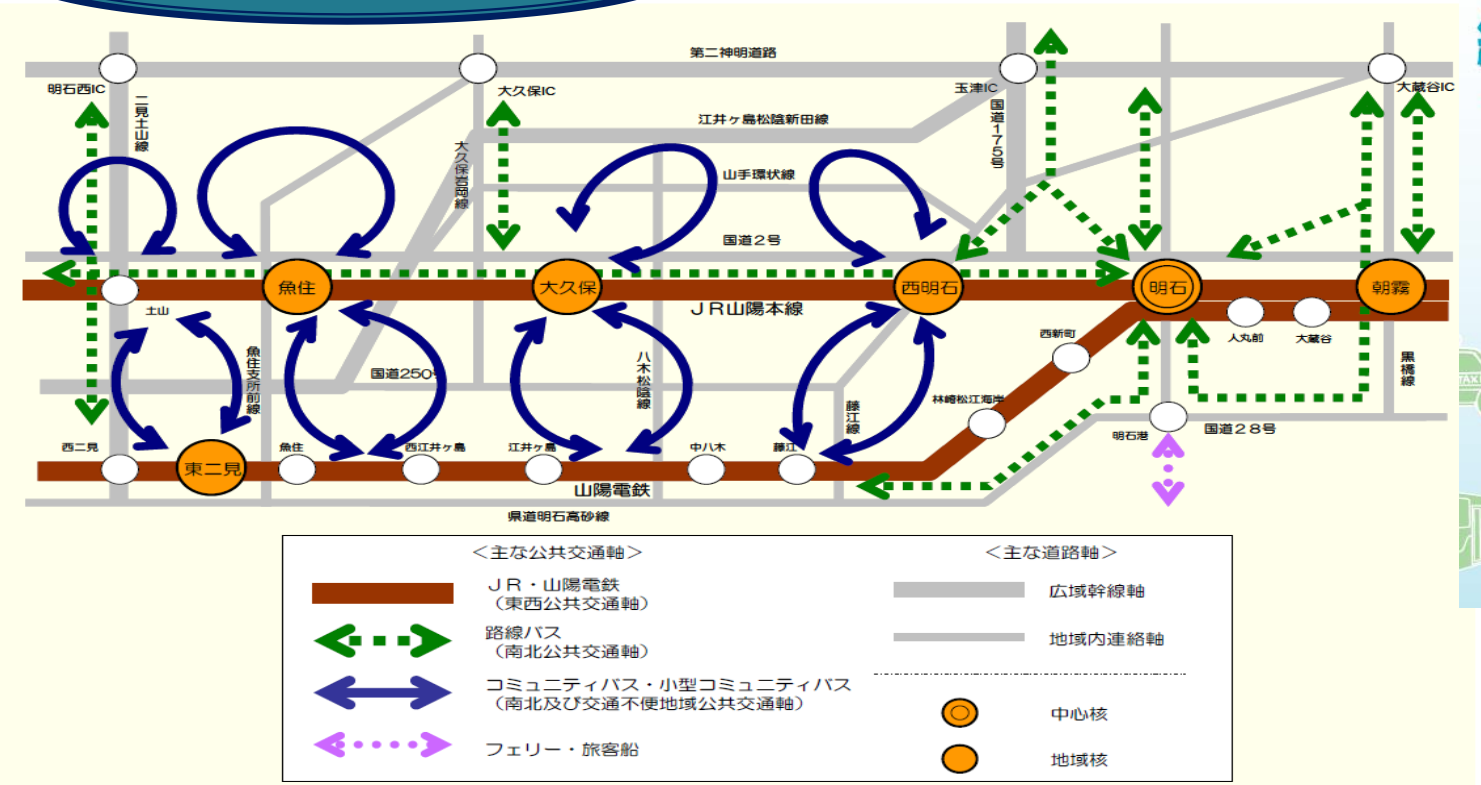


（３）明石市総合交通計画（都市・地域総合交通戦略）［平成19年度版］

目的

「公共交通の利用促進を基本とし、時代の変化に即応した誰もが安全で円滑に移動できる交通体系の確立」

交通体系の考え方



2. コミュニティバス（Tacoバス）

（1）運行概要

Tacoバス
（36人乗り）

Tacoバスミニ
（9人乗り）

導入のコンセプト

〇交通不便地域の縮減
〇移動制約者の移動手段の確保等
＋
路線バスの運行していない市西部地域における、鉄道駅と地域とを結ぶ交通手段として公共交通ネットワークの一部へ

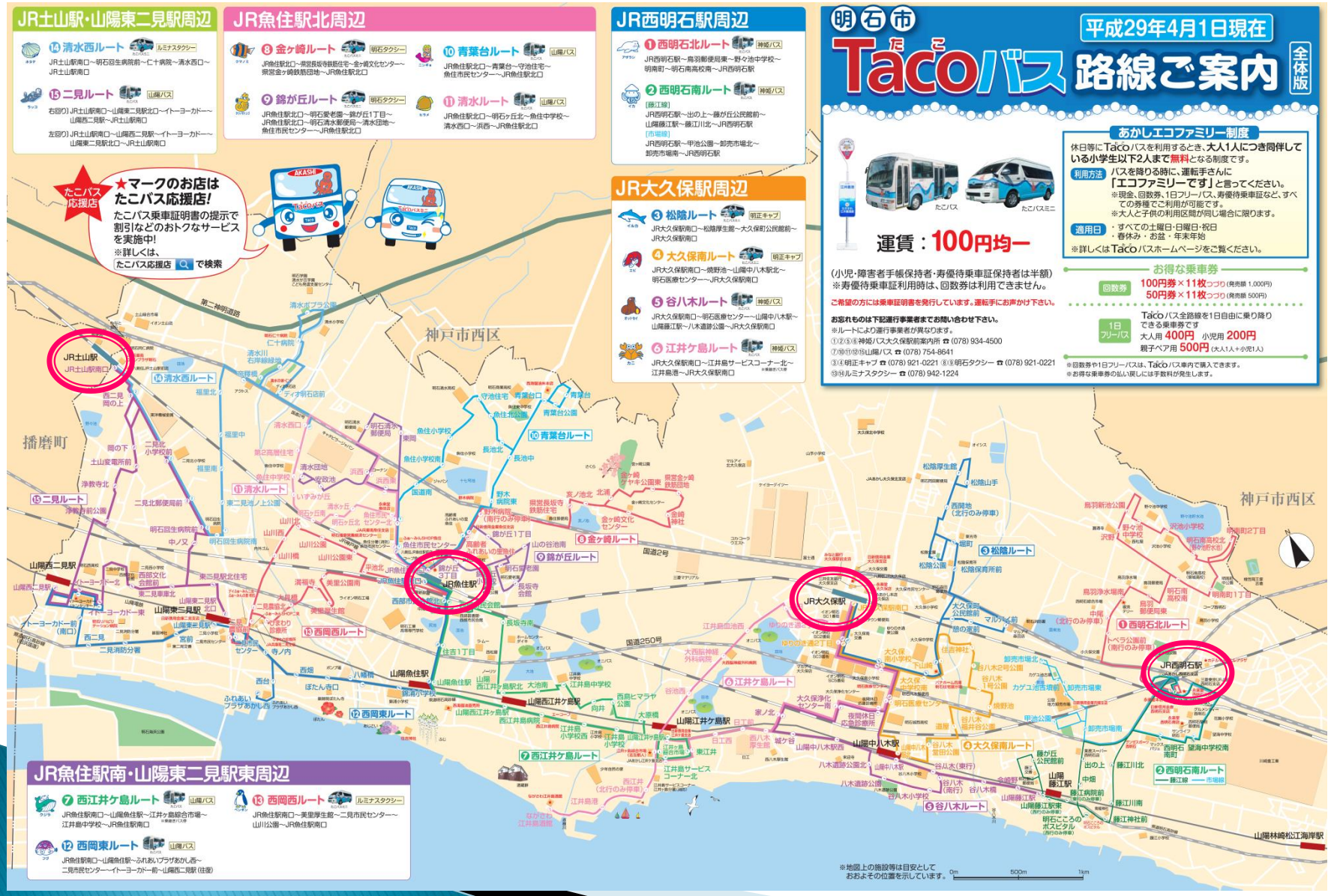
見直し基準の設定

〇収支率（運行収入/運行経費）
Tacoバス　50%　Tacoバスミニ　20%

	実験運行	本格運行	拡大運行
運行期間	H16.11.9～	H18.4.1～	H19.11.20
路線数	2ルート	3ルート	17ルート
車両数（予備車含）	5台	5台	24台（うちミニ9台）
運行時間帯	7時～20時	7時～20時	7時～20時
運行間隔	毎時1便	毎時1便	毎時1便
日利用者数	約650人/日	約950人/日	目標3,000人/日
年間利用者		約34万人/年	目標100万人/年

2. コミュニティバス（Tacoバス）

（1）運行概要



（2）路線拡大とその結果・・・

拡大運行以前の平均利用者数

935人/日
（3ルート）

平成19年11月20日拡大運行開始（・・・運命の日）

失敗事例に
転落か！？

11月30日までの平均利用者数

1,487人/日
（17ルート）

これでは年間55万人足らず・・・100万人は夢でも、少しでも増やしたい

運行水準は簡単に変えることができない・・・
★運行サービスのポテンシャルを最大限に引き出そう！
★課題は何？　一つずつ、それに対する企画づくり！

3. 利便性向上と利用促進策

（１）利便性向上について

★運行サービスのポテンシャルを最大限に引き出す

時期	ねらい	取組み	内容
前期 20～21	サービスの底上げと、利用できるバスとしてのイメージ向上	ルートの見直し （迅速かつ柔軟さを重視）	・利用者が定着する前に、また、評判が固定する前に計画と実態との相違を解消 ・見直し後も利用が増えないルートは廃止
		待合環境の改善	・バス停上屋の整備 ・バス停路線図を模式図から地形図へ
		車両改善（積み残し対策）	ミニの車両9→12人乗り （乗り控えの回避）

待合環境の改善

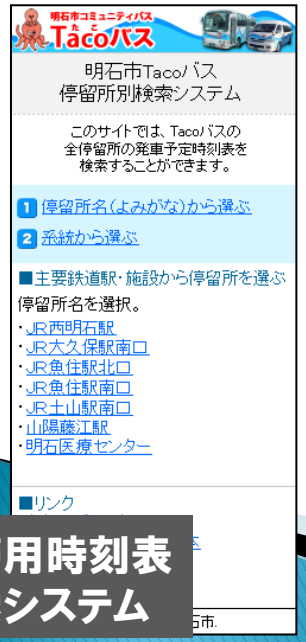
車両改善

3. 利便性向上と利用促進策

（1）利便性向上について

★運行サービスのポテンシャルを最大限に引き出す

時期	ねらい	取組み	内容
中期 21～23	交通手段としてバスを選択しやすい環境づくり	携帯用時刻表検索システムの整備	毎時1便のバスを逃さないよう外出先でもダイヤ検索できるシステムの整備
		「あかしiびじょん。」の整備	鉄道との乗り継ぎを円滑にするため、JR駅のコンコース等に、全てのバスの発車時刻を表示するシステムを構築
		経路検索サービスへのダイヤ提供	駅すぱあとやナビタイム、乗換案内等に運行情報を掲載（来訪者でも利用しやすく）
		エコファミリー制度導入	土日祝は大人1人につき小学生2名まで無料



携帯用時刻表検索システム

西明石駅

あかしiびじょん。

明石駅

エコファミリー制度

3. 利便性向上と利用促進策

（1）利便性向上について

★運行サービスのポテンシャルを最大限に引き出す

緑：地域主体の取組み
赤：事業者主体の取組み

時期	ねらい	取組み	内容
後期 23～25	持続的な運行を目指し、利便性を維持した収支改善	ルートの見直し （利用の少ないルートに重点）	定着した利用者への影響を踏まえつつ効率的なルートへ改変
		路線図への広告掲載	沿線施設の広告掲載による収入と地域との関係を強化
		車両改善（燃料費削減対策）	ミニの車両をLPG&ガソリンハイブリッドへ改造

車両改善（ハイブリッド化）

路線図への広告掲載

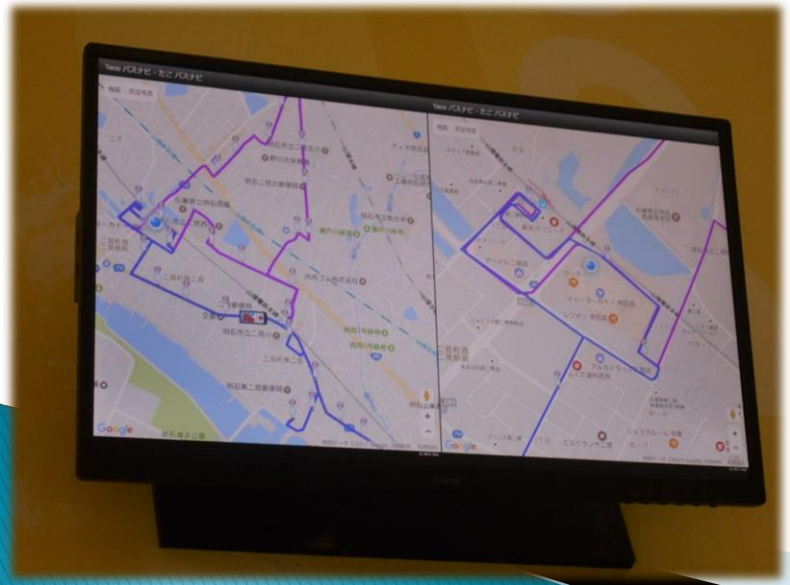
3. 利便性向上と利用促進策

（１）利便性向上について

★運行サービスのポテンシャルを最大限に引き出す

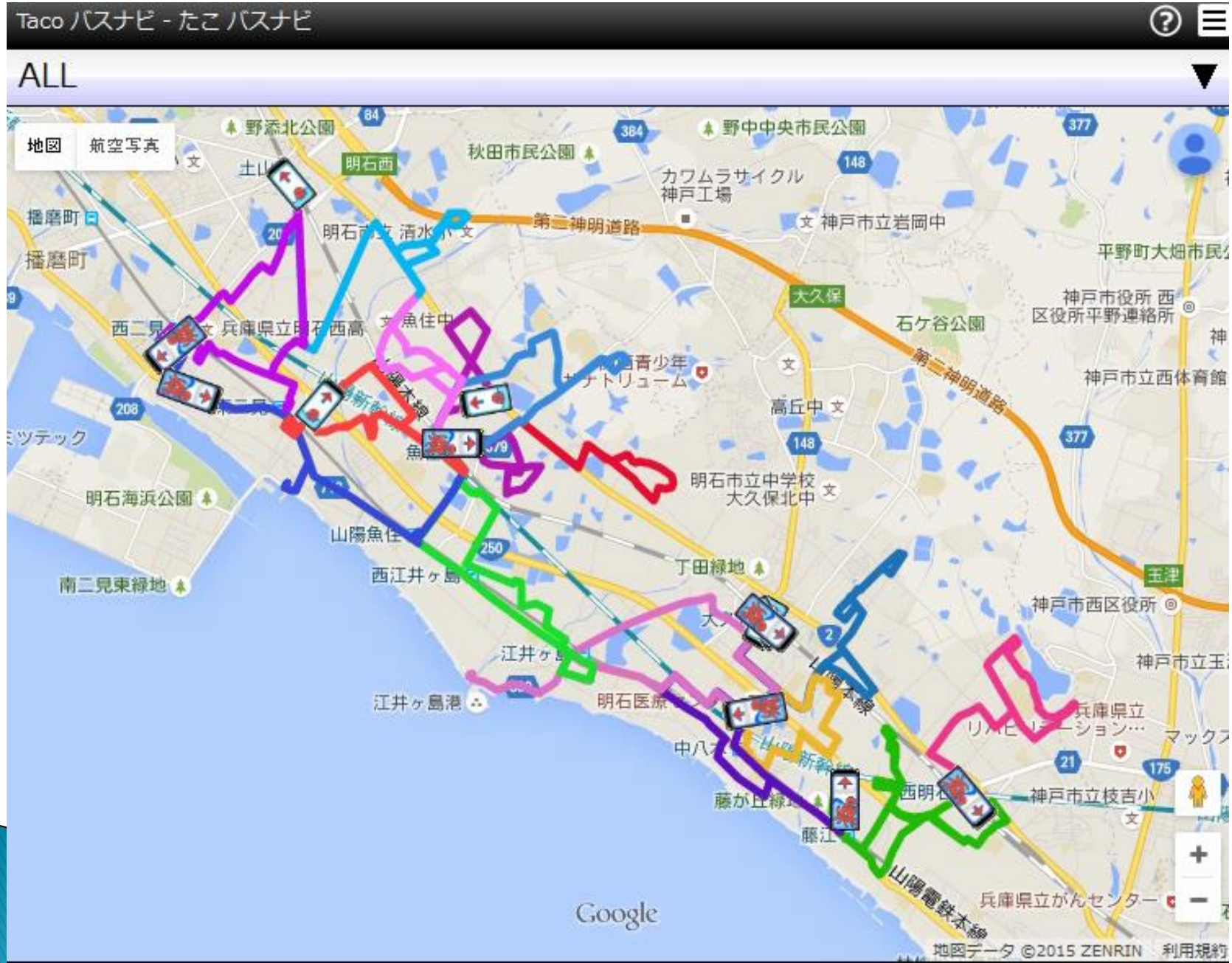
時期	ねらい	取組み	内容
その後 26～28	新しい需要（若年層）の掘り起し	バスロケーションシステムの整備	スマートフォンのGPS機能を利用し、バスの現在地を表示する簡易版バスロケーションシステムを構築（若年層の取り込み） 大型商業施設に常設モニター設置
		車両の大型化（積み残し対策）	ミニの車両12→22人乗り （乗り控えの回避）

バスロケーションシステム



車両の大型化

3. 利便性向上と利用促進策



3. 利便性向上と利用促進策

（２）利用促進策について

★課題に応じた方策の展開

☆は効果算定をしている取組み

時期	ねらい	取組み	内容
前期 20～21	新しい交通機関としての情報発信	公共交通マップ（おでかけマップ）の配布	・鉄道や路線バスも含めすべての公共交通のネットワークが一目でわかるおでかけマップを作成・配布
		学校MM(☆)	沿線小学校でコミバスの乗車体験、公共交通の役割を周知

おでかけマップ

学校MM

3. 利便性向上と利用促進策

（２）利用促進策について

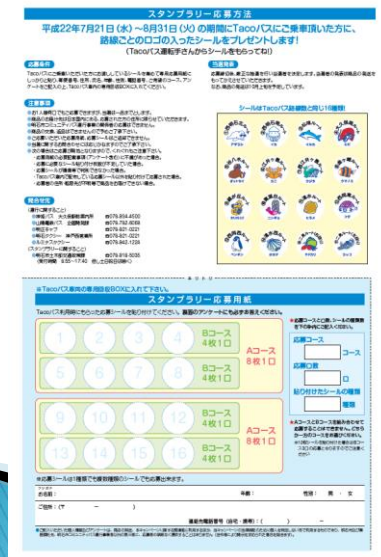
★課題に応じた方策の展開

☆は効果算定をしている取組み

時期	ねらい	取組み	内容
中期 21～23	未利用者への利用誘導	スタンプラリー(夏休み)(☆)	ルート毎のキャラクターシールを集めて商品に応募
		広報誌による特集	公共交通特集により広く利用啓発
		チラシ等の自治会回覧	利用啓発チラシを沿線自治会に回覧

スタンプラリー

記念楯



広報紙による特集

H23.3.15号

H23.11.15号

3. 利便性向上と利用促進策

（２）利用促進策について

緑：地域主体の取組み
赤：事業者主体の取組み

★☆行政だけでは限界・・・もっと人の力を借りる

時期	ねらい	取組み	内容
後期 24～25	地域でバスを支える支援組織の構築	たこバスサポーター制度	利用促進等に協力している企業・団体・個人等をサポーターとして認定
	利用の少ない時期の底上げと平日利用者を休日にも利用誘導	ビンゴキャンペーン(冬休み)(☆)	乗車日と同じ数字のシールを集めて列を完成させて商品に応募
		土日無料社会実験(☆)	利用者が少ない土日の利用誘導と移動実態の把握
	未利用者への利用誘導	クリスマスデコレーション	デコレーションバス運行、飾り付け体験
		お試し乗車券の配布(☆)	転入者への利用の動機づけを図る取組み
		沿線施設訪問	路線図の設置施設拡大、専用時刻表の配布
		Facebook・Twitter開設	SNSによる沿線紹介等の情報を発信
		チラシ・路線図等のポスティング	沿線世帯に直接配布

たこバスサポーター

クリスマスデコレーション

お試し乗車券

3. 利便性向上と利用促進策

（２）利用促進策について

緑：地域主体の取組み

★☆行政だけでは限界・・・　もっと人の力を借りる　⇒地域等との連携強化

時期	ねらい	取組み	内容
その後 25～28	地域でバスを支える意識の醸成	地域と連携したイベント	沿線施設、NPO、学校等と連携して地域イベントや試乗会、10周年イベントを実施
		沿線施設で利用者への特典（応援店制度）	利用者に食事や商品を割り引く施設が登場
		コラボレーションバス	バス車体にご当地アイドル（YENA☆）のイラストをラッピング
		沿線の大型商業施設と連携	一定額以上の買い物レシートで無料乗車券を配布
	未利用者への利用誘導	利用啓発リーフレット（マンガ）の作成	バスの現状を分かりやすく伝えるため、地元高校生と連携して作成

試乗会

YENA☆バス

大型商業施設と連携

応援店

3. 利便性向上と利用促進策

（３）取組みにあたって（PDCA）

P:課題への方策検討
D:実施
C:効果の算定
A:取組み方法の改善

例）スタンプラリー
　課　　題：未利用者の利用誘導
　実　　施：乗車ごとにルートのシールを配布・集めて商品に応募
　効果算定：応募時にアンケート・参加による利用回数の増加を算定
　取組改善：3年目（平成24年度）に効果が鈍化　⇒　未利用者の減少

⇓

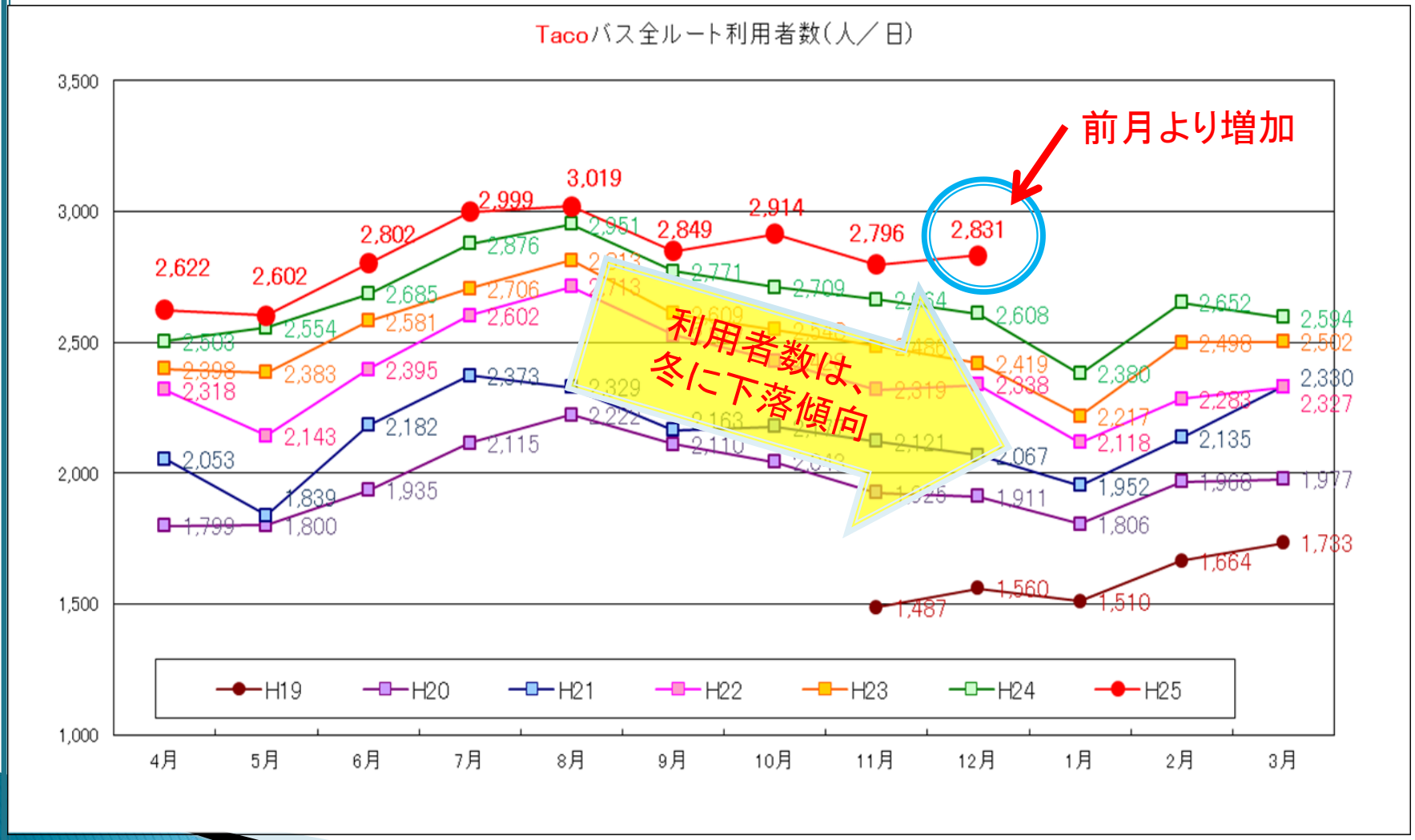
既存利用者の回数増をターゲットに（夏から冬に実施時期を変更）

⇓

平成25年度よりビンゴ方式へ変更
（乗車日と同じ数字のシールを配布・列が揃えば応募）

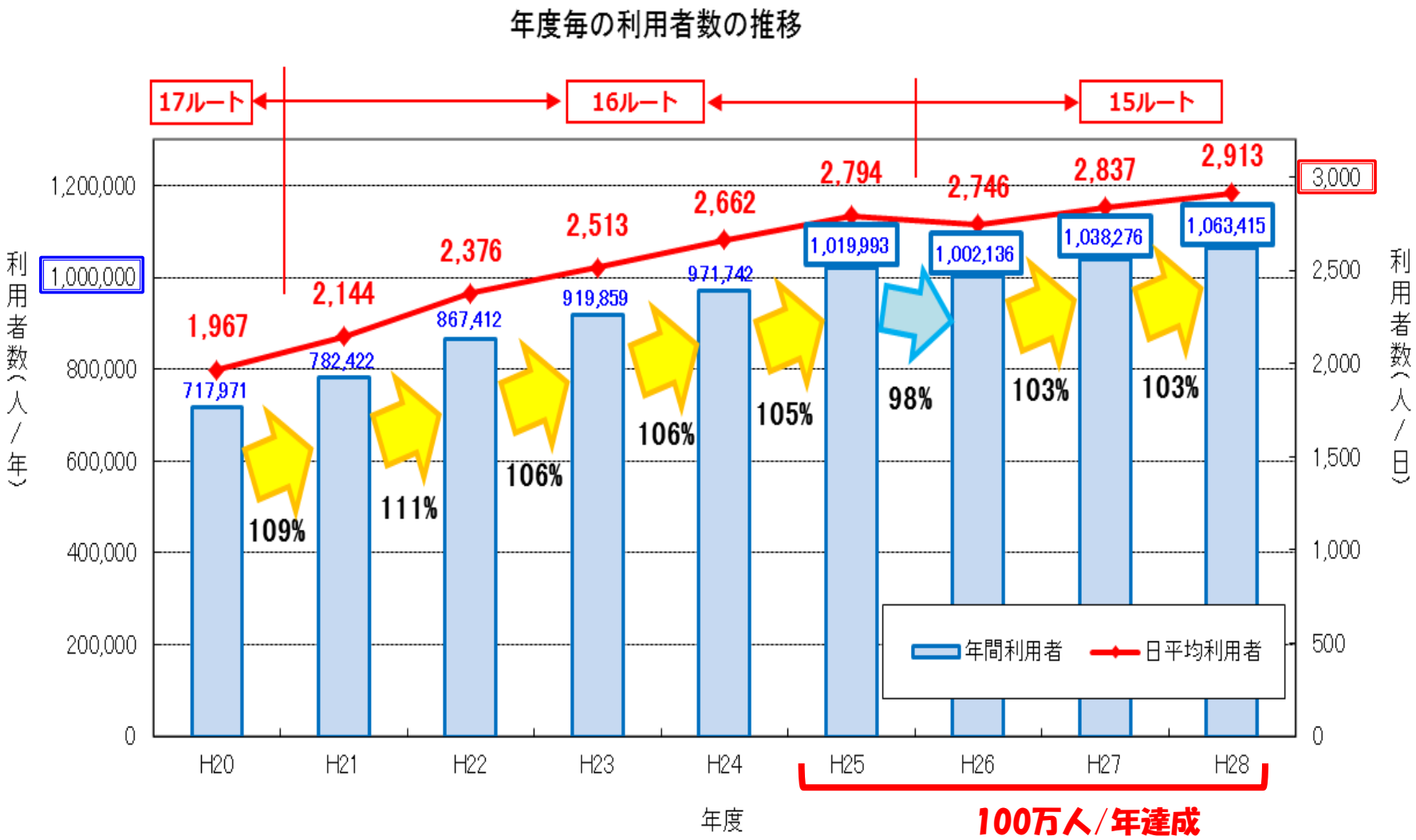
3. 利便性向上と利用促進策

（3）取組みにあたって（PDCA）



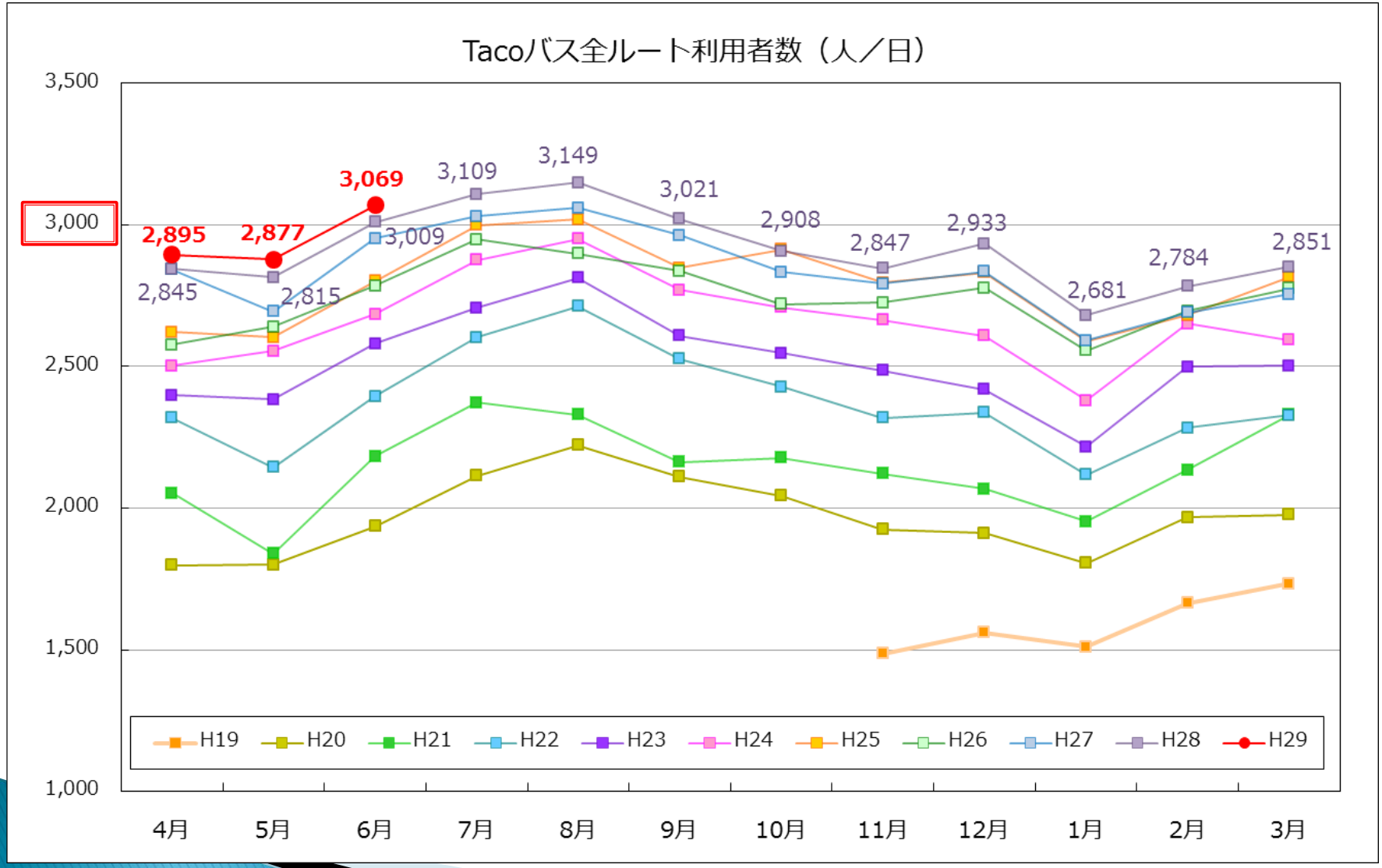
3. 利便性向上と利用促進

（４）年間利用者100万人への軌跡（年間利用者数）



3. 利便性向上と利用促進

（４）年間利用者100万人への軌跡（日平均利用者数）



4. 持続可能な展開方針

（1）明石市総合交通計画（都市・地域総合交通戦略）の見直し[平成24年度改定版]

コミバス
見直し基準

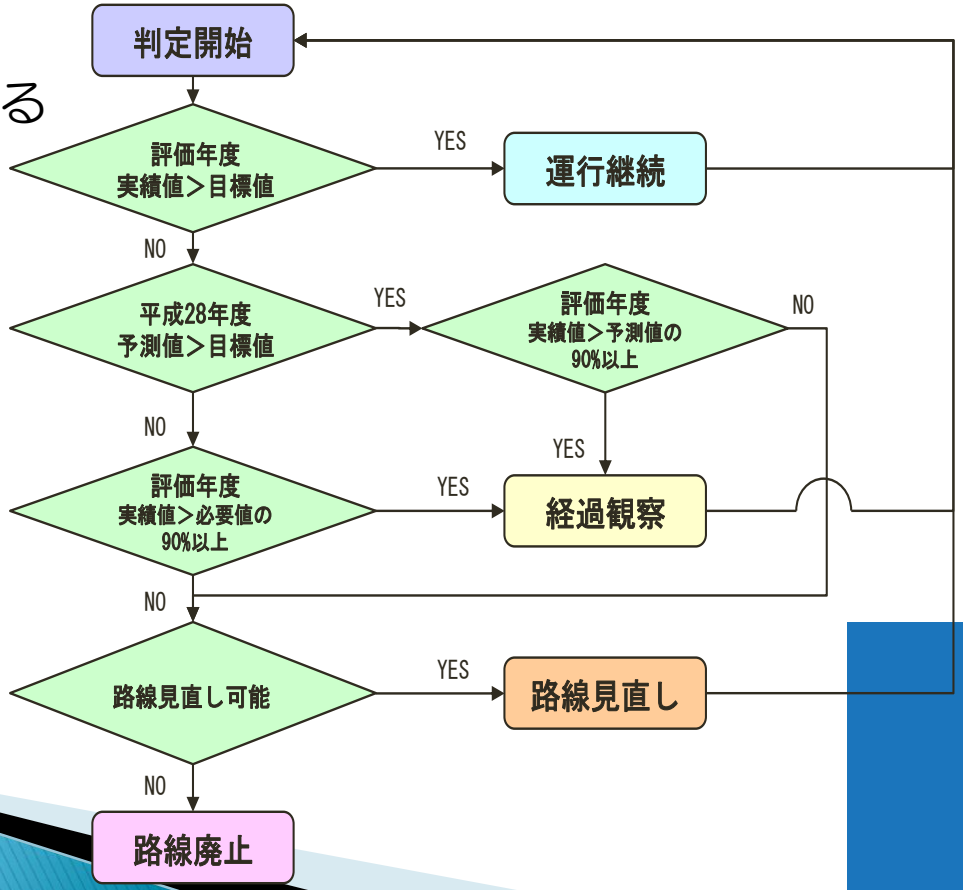
収支率（運賃収入／運行経費）
Tacoバス　５０％　Tacoバスミニ　２０％

見直し基準を達成していなくても増加傾向にあるルートは見直しに着手しにくい･･･

〈発展〉

厳格に
適用する
手法

路線改廃
スキーム

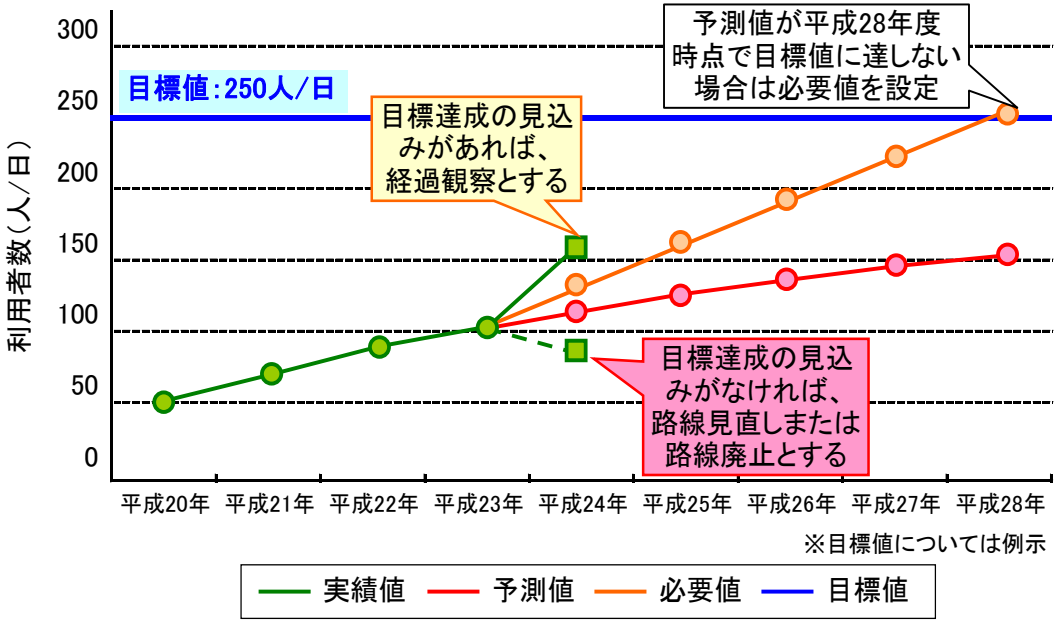


【目標値】
目標収支率を日平均利用者数に換算した値
【実績値】
評価年度の日平均利用者数
【予測値】
H20年度以降の実績から推計した日平均利用者数
【必要値】
評価年度から目標年に目標を達成するために必要な日平均利用者数

明石市総合交通計画
平成24年度改定版

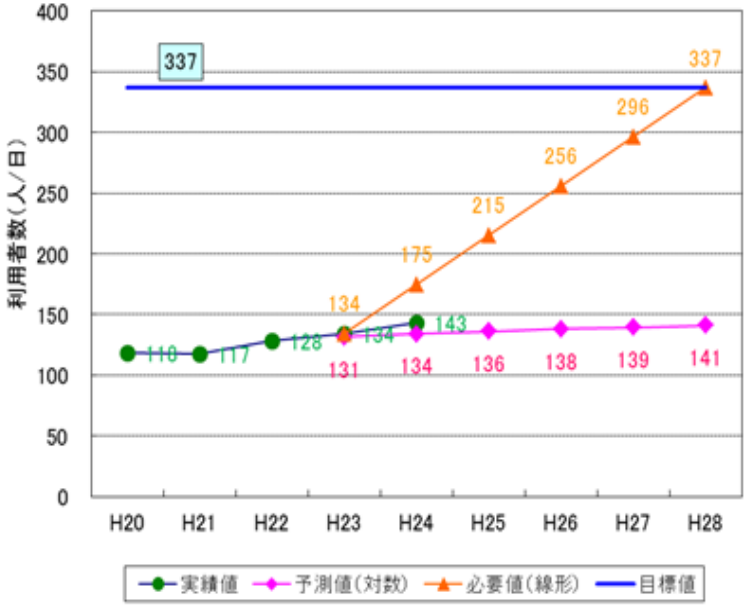
4. 持続可能な展開方針

（２）明石市総合交通計画（都市・地域総合交通戦略）の見直し[平成24年度改定版]



これに沿って毎年路線判定を実施

【参考】



※実績値が必要値の90%未満のため要改廃

判定年度	要改廃判定	見直し結果
平成24年度	3ルート	H26年4月よりルートを統合するなどして運行開始**16⇒15ルート**
平成26年度	2ルート	H28年4月よりルートを見直して運行開始

5. まとめ

（1）色々やって気づいたこと

①利便性向上と利用促進策は同時進行で

②企画はとにかくやってみることで次の展開が顕在化する

③次の展開に対し積極的に対応することで更なる効果が得られる

④人の力は遠慮なく借りる

⑤地域限定の交通モードにせず、交通体系にしっかりと位置付け、担うべき役割から逸れないようにマネジメントすること

（2）進行中の取組み

◎利便性の向上

駅や集客施設でのバスの情報提供の強化

山陽電鉄東二見駅改札前　路面誘導サインを設置

◎利用促進策

たこバスサポーターや地域と連携した企画
地域のエンカレッジを推し進める

※エンカレッジ：推奨や奨励などの意

～ お 礼 ～

運行事業者の皆様へ

あれもしたい、これもしたい･･･
そんな私たちに、いつも前向きに付き合って一緒に知恵を出してくださる運行事業者の皆さんです。

いつもありがとうございます！
これからもよろしくお願いします！